

平成23年度 第1回「歩くまち・京都」推進会議

資料 4



平成23年6月17日 1

「歩くまち・京都」推進会議の役割

「歩くまち・京都」総合交通戦略

数値目標: 自動車分担率 28%→20%以下

戦略の着実な推進により理念を具現化

3つの推進マネジメント会議

シンボルプロジェクトの推進, 88の実施プロジェクトの推進

**進捗状況を確認し, 施策
実施の効果検証を行う**

**戦略の見直しを
幅広い観点から確認**

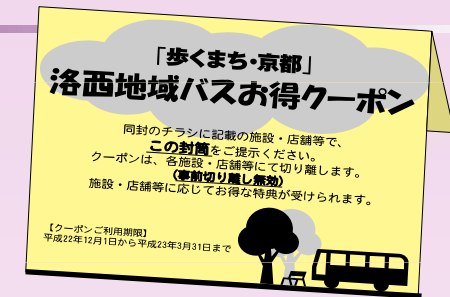
「歩くまち・京都」総合交通戦略の更なる進化

平成23年度の「歩くまち・京都」総合交通 戦略の推進について

「既存公共交通」の取組

□ 洛西地域のバス利便性向上

- 系統・行き先表示の統一に向けた検討
- 洛西地域バスお得クーポンの継続発行の検討 など



洛西地域お得クーポン券

□ 京都駅南口駅前広場整備

- 「京都駅南口駅前広場整備計画」に基づき、駅前広場の整備に向けた測量、予備設計の実施



京都駅南口駅前広場整備計画

□ 電車・バスでまわる「歩くまち・京都」京都フリーパスの充実

- 販売箇所の拡大の検討
- 子供券の設定の検討
- 利用範囲の拡大の検討
- 特典内容の拡充の検討 など



京都フリーパス(磁気券)

「既存公共交通」の取組

□ 駅等のバリアフリー化の推進

- ・ 平成32年度を目標とする鉄道駅のバリアフリー化の整備に向けた対象駅の選定や年次計画等を取りまとめた「新京都市交通バリアフリー全体構想(仮称)」を策定

□ 公共交通不便地域の対応策に関する検討

「まちづくり」の取組

□ 東大路通の自動車抑制と歩道拡幅

- 「整備基本構想」の策定



東大路通

□ 四条通の歩道拡幅と公共交通優先化

- 平成22年度の社会実験の調査結果の検証を進め、都市計画決定を経たうえで、詳細設計に着手



四条通社会実験

□ 新しい公共交通(LRT, BRT)の導入の検討

□ ロードプライシング導入の検討



LRT

「まちづくり」の取組

□ 自動車流入抑制のためのパークアンドライド

- 京都都市圏パークアンドライド連絡協議会による近隣自治体等との連携
- パークアンドライドの更なる拡充, 定着化
 - ⇒ 春の観光シーズンは, 実施日を平日まで拡大し, 25駐車場3,295台の駐車スペースを確保



上下水道局水道管路管理センター駐車場



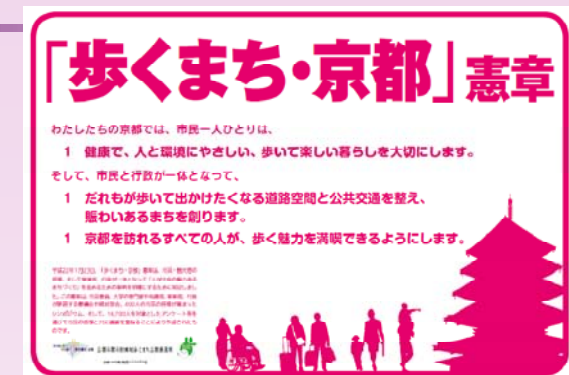
京都運輸支局駐車場

「ライフスタイル」の取組

□ 「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発

- 「歩くまち・京都」憲章への賛同者の募集
- 「歩くまち・京都」シンポジウム(仮称)の開催
- 「歩くまち・京都」に関する川柳の募集

など



□ 「スローライフ京都」^{プロジェクト}大作戦の積極的な推進

- 全市民とともに環境に優しいライフスタイルを目指すモビリティ・マネジメントの実施
- 広域的に公共交通利用を促すモビリティ・マネジメントの実施
- 地域住民や大学, 企業等と連携した参加型モビリティ・マネジメントの実施
- 自動車運転免許更新手続時におけるモビリティ・マネジメントの実施
- 宿泊観光モビリティ・マネジメントの実施
- 駐車場モビリティ・マネジメントの実施

□ 京都スローライフ・ウィーク(モビリティ・ウィーク)の検討

「歩くまち・京都」総合交通戦略に掲げる 88の実施プロジェクトの進捗状況

「歩くまち・京都」総合交通戦略に掲げる実施プロジェクト

□ 「歩くまち・京都」総合交通戦略では、

・「既存公共交通」の取組

・「まちづくり」の取組

・「ライフスタイル」の取組

の3つの分野に分類し、88の実施プロジェクトを掲げている。

分野1「既存公共交通」の取組

(1) 公共交通利便性向上施策

ア	バスの利便性向上施策	先	洛西地域におけるバス利便性向上
イ	バス走行環境の改善施策		
ウ	鉄道の利便性向上施策		
エ	鉄道・バスの連携施策	シ 先	京都駅南口駅前広場整備 京都市内共通乗車券の創設
オ	バリアフリー化の推進		
カ	効果的な情報提供策		
キ	観光地交通対策	シ	パークアンドライドの通年実施
ク	公共交通不便地域のあり方	先	公共交通不便地域の対応策に関する検討

分野2「まちづくり」の取組

(2) 「歩くまち・京都」を支える歩行空間の充実

ア	道路機能分担に基づく歩行空間の創出	シ	東大路通の自動車抑制と歩道拡幅
イ	トランジットモール	シ	四条通のトランジットモール化

(3) 未来の公共交通の充実

ア	新しい公共交通システム(LRT, BRT)	シ	高度集積地区における新しいバスシステムの導入
イ	コミュニティバス等の地域特性に応じた交通手段		

(4) 自動車交通の効率化と適正化

ア	パークアンドライド	シ	パークアンドライドの通年実施
イ	駐車場施策		
ウ	貨物車の荷さばきの適正化		
エ	タクシー交通の位置付けの明確化と効果的な活用		
オ	ロードプライシング		
カ	環境負荷の小さい車両の導入推進		
キ	交通条件の公平化		

(5) パーソナルモビリティの転換

ア	自転車交通施策		
イ	カーシェアリング		

分野3「ライフスタイル」の取組

(6) 「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発

(7) 交通行動スタイルの見直しを促すコミュニケーション施策(モビリティ・マネジメント施策)

ア	「家庭」で交通行動スタイルの見直しを促す施策	シ	「モビリティ・ウィーク」の実施
イ	「学校」で交通行動スタイルの見直しを促す施策		
ウ	「職場」で交通行動スタイルの見直しを促す施策		
エ	「観光客」の交通行動スタイルの見直しを促す施策		

(8) 観光客を対象とした施策

ア	観光地における公共交通利便性向上施策		
イ	観光客向け情報提供策		
ウ	パークアンドライド等による観光地交通対策		
エ	「観光客」の交通行動スタイルの見直しを促す施策		

※ 表中のシ印は、「シンボルプロジェクト」の略で、戦略を推進するための象徴的な施策。

表中の先印は、「先行実施プロジェクト」の略で、戦略検討と併せて、既に新たな取組を行っている施策。

実施プロジェクトの進捗状況

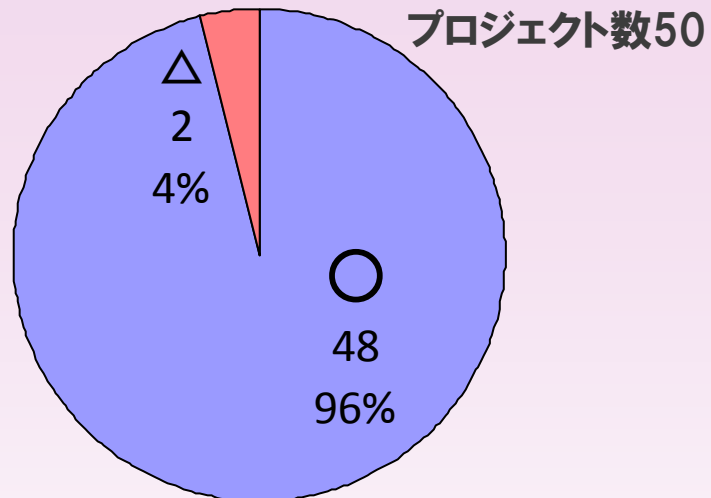
- 進捗状況は、82件が○推進中、6件が△企画構想段階

(詳細は、資料6を参照)

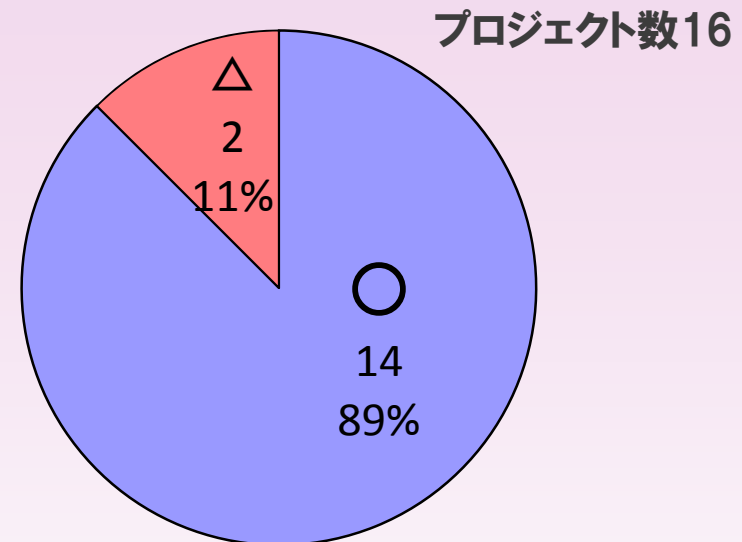
分野	施策分類	進捗状況		
		○ 推進中	△ 企画構想 段階	合計
分野1 「既存公共交通」 の取組	(1)公共交通利便性向上施策	48	2	50
分野2 「まちづくり」 の取組	(2)「歩くまち・京都」を支える歩行空間の充実	2	0	2
	(3)未来の公共交通の充実	2	1	3
	(4)自動車交通の効率化と適正化	7	1	8
	(5)パーソナルモビリティの転換	3	0	3
分野3 「ライフスタイル」 の取組	(6)「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発	1	0	1
	(7)交通行動スタイルの見直しを促すコミュニケーション施策	19	2	21
合 計		82 (93%)	6 (7%)	88 (100%)

実施プロジェクトの進捗状況《分野別》

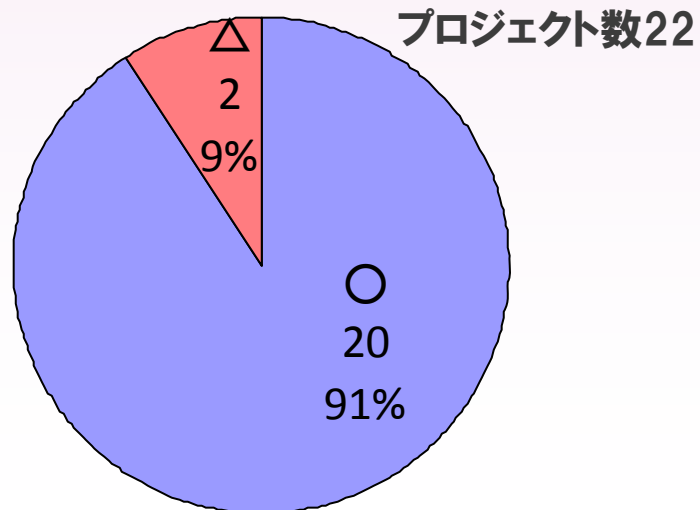
《分野1：既存公共交通の取組》



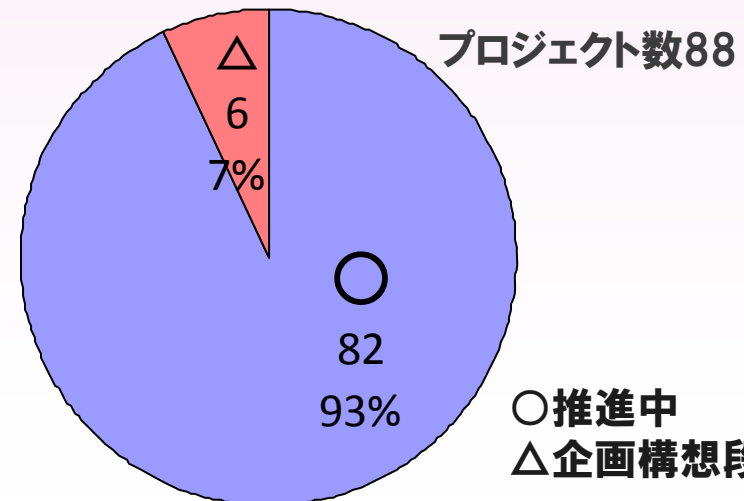
《分野2：まちづくりの取組》



《分野3：ライフスタイルの取組》



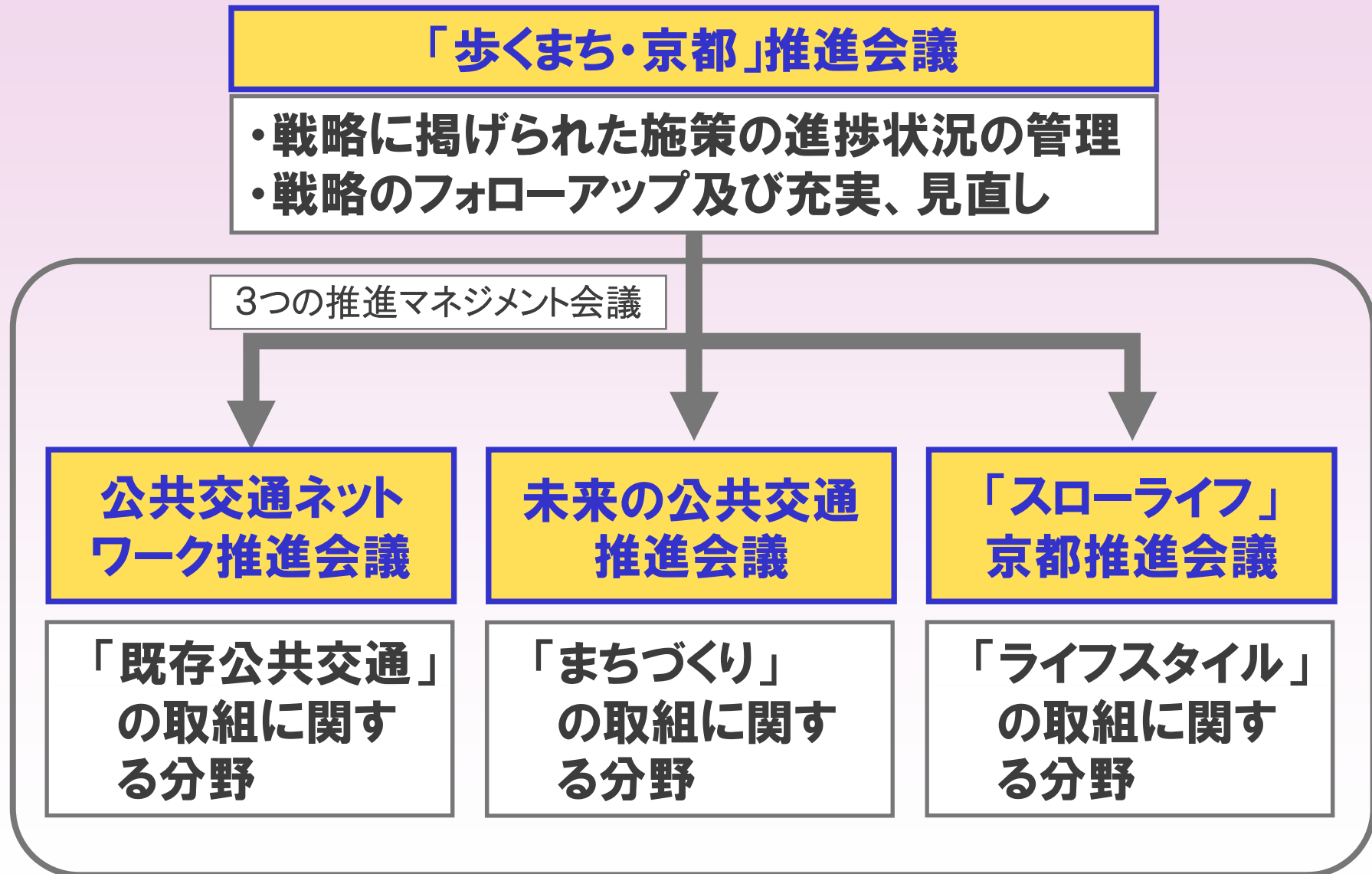
《合 計》



○ 推進中
△ 企画構想段階

平成23年度の「歩くまち・京都」推進会議 等の進め方について

「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進体制



「歩くまち・京都」推進会議の進め方

◆会議の目的

人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現を目指し、「歩くまち・京都」総合交通戦略の進捗を総合的に点検し、戦略のフォローアップや社会情勢の変化も踏まえた充実及び見直しを継続的に行う。

◆会議開催時期及び内容

第1回 平成23年6月17日(本日)

- ・戦略の進捗状況と本年度の実施予定について

第2回 平成23年12月ごろ

- ・3つの推進マネジメント会議の進捗状況の報告
- ・定量的指標に基づく目標の達成状況の効果検証

第3回 平成24年3月ごろ

- ・平成23年度の取組の総括
- ・平成24年度の実施方針

公共交通ネットワーク推進会議

「歩くまち・京都」総合交通戦略

数値目標: 自動車分担率 28%→20%以下

シンボルプロジェクトの推進, 88の実施プロジェクトの推進

3つの推進マネジメント会議

「まちづくり」の取組

連携

「ライフスタイル」の取組

「既存公共交通」の取組

公共交通の利便性向上について、市内を運行する交通事業者によるネットワークが構築されているが、戦略の推進のためには、更なる連携強化が必要

各事業者が単独で実施する施策状況の把握

事業者の連携により実施する施策の推進

- ・ 交通事業者の連携強化
- ・ 利用者目線での公共交通利便性向上

公共交通ネットワーク推進会議の進め方

◆会議の目的

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」を実現するためには、公共交通の利便性向上が不可欠であることから、交通事業者の連携のもと、利用者目線に立って利便性向上を図る。

◆会議での主な論点

誰もが分かりやすく利用しやすい公共交通となるよう、事業者間の連携による効果的な情報提供を検討

公共交通ネットワーク推進会議の進め方

◆会議開催時期及び内容

第1回 平成23年7月ごろ

- ・平成23年度の各交通事業者における取組予定について
- ・鉄道・バス連携の情報提供の方策について

第2回 平成23年11月ごろ

- ・各交通事業者における取組予定及び実施状況の報告
- ・情報提供の方策の具体的な検討状況について

第3回 平成24年2月ごろ

- ・各交通事業者における実施状況の報告
- ・今後の進め方

未来の公共交通推進会議

「歩くまち・京都」総合交通戦略

数値目標: 自動車分担率 28%→20%以下

シンボルプロジェクトの推進, 88の実施プロジェクトの推進

3つの推進マネジメント会議

「既存公共交通」の取組

連携

「ライフスタイル」の取組

「まちづくり」の取組

将来の京都市における都市基盤整備を見据えて以下の項目を検討

- ・ 道路機能分担, 道路空間再配分
- ・ 地域特性を踏まえた新しい公共交通や自動車利用の抑制策

未来の公共交通推進会議の進め方

◆会議の目的

将来の京都市における都市基盤整備を見据えて、そのために必要な地域特性を踏まえた新しい公共交通の検討や、自動車利用の抑制策、道路の機能分担、道路空間再配分に関する検討を行う。

◆会議での主な論点

- 市民・観光客の皆様の移動が多いことなどから、都心部を対象に重点的な検討
- 期待される効果などを踏まえて、実施プロジェクトの優先順位を検討

未来の公共交通推進会議の進め方

◆会議開催時期及び内容

第1回 平成23年8月ごろ

- ・都心部を対象とした実施プロジェクトについて

第2回 平成23年11月ごろ

- ・都心部を対象とした実施プロジェクトについて

第3回 平成24年2月ごろ

- ・今後の進め方

「スローライフ京都」推進会議

「歩くまち・京都」総合交通戦略

数値目標：自動車分担率 28%→20%以下

シンボルプロジェクトの推進, 88の実施プロジェクトの推進

3つの推進マネジメント会議

「既存公共交通」の取組

連携

「まちづくり」の取組

「ライフスタイル」の取組

歩くことを中心としたまちと暮らしに転換するための行動規範となる
「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発

ライフスタイルの見直しを促すモビリティ・マネジメントを体系的に
実施する「スローライフ京都」^{プロジェクト}大作戦の推進, 更なる充実

市民・観光客の皆様の自発的な意識改革により,
歩くことを中心としたライフスタイルへ転換

「スローライフ京都」推進会議の進め方

◆会議の目的

市民の皆様のライフスタイルの転換を促す施策であるため、市民、学識経験者などの第三者からの御意見をいただき、モビリティ・マネジメントの推進、「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発を図る。

◆会議での主な論点

平成23年度の「スローライフ京都」^{プロジェクト}大作戦を踏まえ、今後の展開として、「歩くまち・京都」憲章の普及・啓発やライフスタイルの転換に向けた働きかけを重層的・複合的に実施するための、より効果的な手法やアイデア等など

「スローライフ京都」推進会議の進め方

◆会議開催時期及び内容

第1回 平成23年7月ごろ

- ・平成23年度の「スローライフ京都」プロジェクト大作戦の実施予定について

第2回 平成23年12月ごろ

- ・「スローライフ京都」プロジェクト大作戦の進捗状況に関する中間報告

第3回 平成24年2月ごろ

- ・「スローライフ京都」プロジェクト大作戦の最終報告
- ・今後の進め方

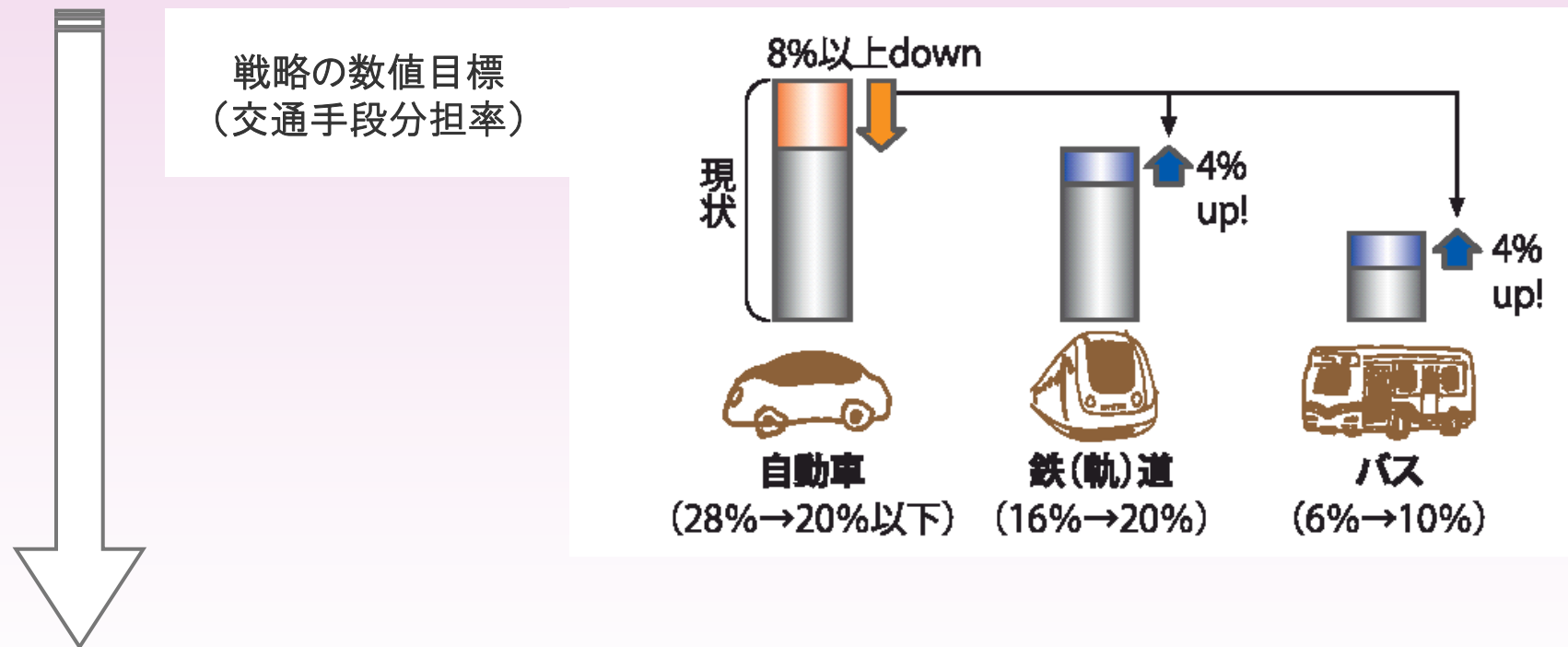
本日の会議の進め方

意見交換のポイント

1. 総合交通戦略に掲げる88の実施プロジェクトの進捗状況について、ご意見をいただきたい。
2. 推進中の実施プロジェクトは、今後、詳細な進捗度合を把握することにより、課題を明らかにし、「歩くまち・京都」推進会議や3つの推進マネジメント会議でのご議論をしていただきたいと考えている。各会議で議論していただくうえでの視点について、ご意見をいただきたい。
3. 本年度の「歩くまち・京都」推進会議と3つの推進マネジメント会議の進め方について、総合的な視点で、ご意見をいただきたい。
4. 戦略の策定から1年が経過し、京都市の交通まちづくり政策に対して、現在、感じておられることについてのご意見をいただきたい。

【参考】戦略を推進するうえでの効果検証のあり方

戦略の理念を共有し、戦略を着実に推進するうえで、進捗を確認するとともに、市民・観光客の皆様に進捗状況を知っていただくことが重要である。



市民・観光客の皆様にわかりやすい効果検証を行う必要がある。

【参考】効果検証の実施フロー

88の実施プロジェクトの進捗を把握

効果検証に用いるデータを収集

実施プロジェクトの進捗状況を踏まえて、効果検証のため收拾したデータについて、増減とその要因などを分析

推進会議に分析結果を報告

一人一人のライフスタイルの更なる転換

戦略の更なる進化

人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現

【参考】効果検証のポイントと主な指標

＜ポイント① 公共交通＞

【指標】公共交通利用者数，バス旅行速度 など

＜ポイント② 道路機能＞

【指標】自動車交通量，自動車旅行速度，事故件数，歩行者数 など

＜ポイント③ まちの賑わい＞

【指標】歩行者数，歩行者属性，歩行者の滞留時間及び回遊性，
商業的指標（小売業の年間商品販売額，売場面積など） など

＜ポイント④ まちづくり＞

【指標】コンパクトシティ化(学区単位の人口密度)，土地利用（地価）
CO₂排出量など

＜ポイント⑤ ライフスタイル＞

【指標】交通に関する市民満足度，交通に関する観光客満足度，
健康指標（糖尿病患者数など） など

＜ポイント⑥ 社会経済＞

【指標】人口，高齢化率，就業人口，運転免許保有数，原油価格，
ガソリン消費量，駐車場台数， など